

ブライダルビジネスにおけるインターネット活用

岡田 由紀子

(要旨) 少子化, 晩婚化, 非婚化が進む社会現象を背景に, ブライダルビジネスにも変容が見られる。従来ブライダルビジネスは, 雑誌等を中心とする出版社型事業が多かったが, ネットの発達により, 消費者が直接情報を提供するサイトが人気を得ている。これにより, 消費者の生の声がリアルタイムに掲載され, メーカー等の利害関係に束縛されない自由な意見が情報として集積されるため, 消費者にとっては有効なサポート環境が形成される。メーカーにとってはトレンドの傾向が簡単に判断できる場となっている。本稿は, 口コミサイト「みんなのウェディング」が2012~2015年に実施した調査結果から, 近年の挙式・披露宴に対する傾向を探る。

キーワード : ブライダルビジネス, みんなのウェディング

1 はじめに

厚生労働省の調査¹⁾から, 我が国の婚姻件数および婚姻率は, 終戦直後の一時期を除けば1972年がいずれもピークであり, その後減少を続けていることは周知の事実である。

それでは, 現在の挙式・披露宴の現状はどのようなものだろうか。

株式会社電通は, 2016年2月, わが国の総広告費と媒体別・業種別広告費を推定した「2015年(平成27年)日本の広告費」を発表した。²⁾

電通総研の北原利行氏によると, 「日本の広告費は, 大きくはマスコミ四媒体(テレビ, ラジオ, 新聞, 雑誌)の広告費とインターネット広告費, そしてプロモーションメディアの広告費に分けられるが, 同110.2%という二桁成長を遂げたインターネット広告が全体をけん引するかたちになっている」と述べており, ブライダルビジネスにおいても, ネットからの情報を利用するカップルが増えていると考えられる。(表1)

表1 「日本の広告費」(電通)

年	総広告費		媒体別前年比 (%)		
	金額 (億円)	前年比 (%)	マスコミ四媒体	インターネット	プロモーションメディア
2012	58,913	103.2	103.2	107.7	101.4
2013	59,762	101.4	100.4	108.1	100.1
2014	61,522	102.9	101.6	112.1	100.8
2015	61,710	100.3	97.6	110.2	99.1

2 アンケート概要

参考にしたサイトは, ネットの挙式・披露宴の 口コミサイト「みんなのウェディング」(株式会社みんなのウェディング)に掲載されている2012~2015年の4年間の「みんなのウェディング白書」^{3) 4) 5) 6)}である。その結果を基に, 挙式・披露宴等の動きを探った。

対象者は, 過去1年以内に挙式・披露宴を実施した男女で, 2014・2015年は女性のみが対象者となっている。サイトには, 2011年の調査結果の白書が掲載されていたが, 結婚式を挙げていない対象者が含まれていたため考察からはその年を省いた。(表2)

表2 アンケート対象者

年	期間	有効回答数	平均年齢	女性 (%)	男性 (%)
2011	5/16~23	820	29.1	91.1	8.9
2012	5/24~31	238	30.0	93.7	6.3
2013	5/16~27	476	30.1	92.7	7.3
2014	4/3~15	522	30.1	100.0	
2015	4/2~14	565	29.7	100.0	

3 調査結果

(1) 結婚式場選び

i) 結婚式場の下見

結婚式場の平均下見件数は, 減少傾向にあるが, 2015年度は絞り込んで下見をするカップルと多数を見比べるカップルが増えた。ネットや雑誌で式場の情報を調べ, ネットの口コミを確認して, ある程度絞り込んで, ブライダルフェアや式場見学に行くようである。式場によっては, ブライダルフェアでは, 結婚式の料理の試食やお食事券などの特典もある。(表3)

表3 結婚式場の下見は何件訪問した？

	2012	2013	2014	2015
平均	4.3件	3.8件	3.8件	3.6件
10件以上	9.7	8.0	5.7	6件以上 ③17.7
9件	0.8	1.3	0.8	
8件	1.7	2.3	3.3	
7件	2.1	2.9	5.2	
6件	8.0	5.5	4.6	
5件	②18.9	10.3	10.5	
4件	13.4	13.0	③16.7	12.4
3件	①19.3	①22.2	①18.2	②19.8
2件	③16.8	②17.6	②17.8	①23.1
1件	9.2	③14.0	15.1	13.1
0件	-	2.9	2.1	2.1

ii) 式場選びのポイント

式場選びのポイントの1位は2012・2013年は「ロケーション（景色・交通の便）」である。特に列席者を考え、交通の便を重視するカップルが多い。2014・2015年は「会場の雰囲気」で、その理由は、2012・2013年の項目には「会場の雰囲気」がなく、「その他」に含まれていたためである。2位は「会場設備」、3位に「コストパフォーマンス」（費用対効果）が入った。2012年は3位に「料理」、2014年は「スタッフの対応」が入り、理想の結婚式像の多様化が伺える。（表4）

表4 結婚式を決定するとき、もっとも重視したポイントは？

	2012	2013	2014	2015
会場の雰囲気			①36.2	①34.7
ロケーション	①29.7	①23.9	②22.8	②18.1
コストパフォーマンス	13.6	③18.9	11.1	③15.2
料理	③16.5	15.3	11.3	13.8
スタッフの対応	13.6	14.9	③12.8	13.1
会場設備	②19.5	②20.2	2.3	3.0
進行・演出	1.3	2.3	0.4	
その他	5.9	4.4	3.1	2.1

iii) 挙式会場のスタイル

挙式スタイル1位は「ホテル」、2位は「専門式場」（結婚式に特化した施設）、3位は「ゲストハウス」（一軒家貸切）とトップ3の順位は4年間変わっていない。2015年は「ホテル」と「専門式場」の差が余りない。ホテルは宿泊施設が併設で、遠方からのゲストを招待しやすく、天候にも左右されにくい。「専門式場」は伝統的な形式を重んじるカップルに、「ゲストハウス」はプライベートやオリジナル感を大事にしたいカップルに人気があったが、2013年から「ゲストハウス」の人气が下がっている。（表5）

表5 挙式会場のスタイルは？

	2012	2013	2014	2015
ホテル	①26.7	①31.6	①31.9	①30.6
専門式場	②26.3	②23.5	②25.0	②28.7
ゲストハウス	③23.7	③17.6	③17.8	③18.1
教会	6.4	8.7	7.7	7.5
レストラン	8.1	10.0	7.7	6.1
神社	5.5	5.5	8.5	5.7
その他	3.4	2.8	1.4	3.2

iv) 写真の前撮り

「前撮り」とは、結婚式の日より前にウェディングドレス・和装姿を写真におさめておくこと。2012年から毎年増えており、2015年は約6割が写真の「前撮り」をしている。2015年度の内訳（複数回数）では、1位和装（75.8%）、2位（本番で着る）ウェディングドレス（33.4%）、3位カラードレス（26.1%）と和装が人気で、和装も洋装も、両方とも写真に残しておきたい様子が伺える。（表6）

表6 結婚式の日とは別に写真の前撮りをしている？

	2012	2013	2014	2015
前撮りする	46.2	50.8	54.6	57.7
前撮りしない	53.8	49.2	45.4	42.3

(2) 結婚式の費用

i) 招待ゲストの人数

2012～2015年の招待ゲストの人数は70～80名未満が最多人数帯である。2位、3位は年により入れ替わりはあるが、招待ゲストは50～90名未満が一般的である。しかし、招待ゲストの人数は、160人以上から10名未満まで、自分たちに見合った人数を設定しているようである。（表7）

表7 披露宴・披露パーティへの招待ゲストの人数は？

	2012	2013	2014	2015
160人以上				
150～160人未満	0.9	0.9	0.4	1.3
140～150人未満	0.9	0.4	0.4	0.2
130～140人未満	0.4	0.4	0.6	0.8
120～130人未満	0.4	1.9	0.8	0.4
110～120人未満	1.3	1.5	1.4	2.1
100～110人未満	4.4	3.2	4.2	4.8
90～100人未満	7.5	7.8	6.7	7.4
80～90人未満	7.0	10.0	9.3	13.7
70～80人未満	①18.0	①17.7	①17.9	①16.0
60～70人未満	②17.5	②14.3	②15.1	②14.8
50～60人未満	③13.2	③13.2	③13.3	②14.8
40～50人未満	11.4	10.8	9.1	8.4
30～40人未満	5.3	7.4	7.7	6.1
20～30人未満	5.7	4.8	6.2	5.7
10～20人未満	3.1	3.7	4.6	2.5
10人未満	3.1	1.9	2.4	1.1

ii) 最初に予定していた総額予算

最初に予定していた総額予算、1位は「250～300万円未満」2位は「300～350万円未満」である。3位は2013・2015年「150～200万円未満」が増え、総額予算が減少傾向にある。(表8)

表8 結婚式・披露宴、最初に予定していた総額予算はいくら？

	2012	2013	2014	2015
800万円以上				
750～800万円未満	0.4	0.2	0.2	0.4
700～750万円未満				
650～700万円未満				
600～650万円未満				
550～600万円未満	0.0	0.6	0.6	0.4
500～550万円未満	0.8	1.1	0.6	0.9
450～500万円未満	2.1	2.1	1.5	1.4
400～450万円未満	3.0	3.6	3.4	4.6
350～400万円未満	11.4	7.4	10.0	9.2
300～350万円未満	②14.4	②16.6	②15.9	②18.2
250～300万円未満	①20.8	①21.8	①19.5	①18.6
200～250万円未満	③13.1	③12.8	③15.1	12.2
150～200万円未満	14.0	③12.8	11.3	③13.3
100～150万円未満	8.9	10.1	9.8	8.1
50～100万円未満	6.8	7.8	8.0	8.5
25～50万円未満	2.5	1.9	3.3	3.2
25万円未満	1.7	1.3	0.8	1.1

iii) 結婚式・披露宴で実際に支払った金額

1位は2012年から「300～350万円未満」が続いている。2位は2012・2013年は「250～300万未満」、2014・2015年は「350～400万未満」である。3位は2012年は「400～450万未満」、2015年は「400～450万未満」と「200～250万未満」に分れた。(表9)

表9 結婚式・披露宴で実際に支払った金額はいくら？

	2012	2013	2014	2015
800万円以上				
750～800万円未満	1.3	1.9	0.6	1.4
700～750万円未満				
650～700万円未満				
600～650万円未満				
550～600万円未満	2.1	1.1	2.1	1.9
500～550万円未満	3.4	2.5	1.7	4.4
450～500万円未満	2.5	6.5	5.8	4.8

400～450万円未満	③12.3	8.4	9.6	③11.2
350～400万円未満	11.0	③12.0	②13.8	②14.7
300～350万円未満	①18.6	①16.0	①16.1	①15.0
250～300万円未満	②14.0	②14.9	③12.3	9.7
200～250万円未満	10.2	9.9	11.9	③11.2
150～200万円未満	9.7	10.9	8.8	8.7
100～150万円未満	5.9	8.6	7.5	7.8
50～100万円未満	6.4	4.6	7.5	5.3
50万円未満	1.7	1.5	1.5	2.1
25～50万円未満				
25万円未満	0.8	1.1	0.8	1.8

iv) 結婚式・披露宴で、最終的にふたりで支払った金額はいくら？(ご祝儀・親等のからの援助金は除く)

最終的にふたりで支払った金額(持出し)は、2012・2013年は「150万円未満」に抑えているカップルが多く、2014・2015年は「100万円未満」に抑えている。「持出しは一切なかった」というカップルも2015年は2割以上おり、2012年から増加傾向である。(表10)

表10 結婚式・披露宴の費用で、最終的にふたりで支払った金額はいくら？

	2012	2013	2014	2015
持出し費用は一切なかった	11.4	15.8	③18.6	③20.7
50万円未満	①25.9	①24.6	①22.6	②20.9
50～100万円未満	②24.6	②21.8	②21.3	①23.2
100～150万円未満	③16.1	③16.2	18.0	16.5
150～200万円未満	9.7	8.4	8.8	8.8
200～250万円未満	6.4	6.5	4.4	4.6
250～300万円未満	3.8	3.4	2.5	1.4
300～350万円未満	1.3	2.1	2.1	2.1
350～400万円未満	0.4	0.4	1.0	0.5
400～450万円未満	0.4	0.6	0.6	1.4
500～550万円未満	0.0	0.2	0.2	
800万円以上				

(3) 2次会の実施・場所(2014・2015年調査)

2次会を実施する・しないは半々である。「1.5次会を行った」とは、披露宴を兼ねたパーティのことである。実施した理由(複数回答)のトップ3は、「友人とワイワイ楽しいことがしたい」「全員を挙式・披露宴に呼べなかったから」「友人とゆっくり話したい」で、しない理由は、「幹事を誰かに依頼するのが負担」「祝儀以外

にまた費用を出してもらおうのが申し訳ない」「みんなでワイワイするのが苦手」である。場所のトップは、「レストラン」が約5割、2位は「居酒屋」、3位は「ホテル」であった。(表11)

表11 2次会は実施した？実施しなかった？

	2014	2015
2次会をした	49.8	48.8
2次会はしていない	47.9	48.5
1.5次会を行った	2.3	2.7

4 考察

今回は、2012～2015年に挙式・披露宴を実施したカップルについて、「みんなのウェディング白書」の調査結果を分析した。その結果、カップルは、ネットや雑誌で式場の情報を調べ、ある程度計画を立ててから、ブライダルフェアや式場見学に行っているようである。下見では、結婚式の料理の試食やお食事券を利用し、料理のおいしさを比較するだけでなく、スタッフサービスの良し悪しを点検していることがわかった。

式場選びのポイントは、「会場の雰囲気」「ロケーション」。列席者に高齢者がいる場合などは、交通の便は重要である。

今は個性の時代である。式場に自分たちの理想の演出を希望するカップルも多く、「会場設備」「コストパフォーマンス」が重要視されている。

挙式スタイル1位「ホテル」、2位「専門式場」に変化はないが、3位の「ゲストハウス」は天候や気候に左右されることが人気低迷の原因との声がある。

写真の前撮りが毎年増えており、2015年は約6割が写真の「前撮り」をしている。和装も洋装も、両方とも写真に残しておきたいニーズが高まっている。

招待ゲストの人数は、2012～2015年まで50～80名前後でほとんど差がない状況である。

実際に支払った金額は、2015年は3位が「400～450万未満」と「200～250万未満」に分れ、格差が広がっている。結婚式は相手の気持ちを考え、最初に予定していた予算をオーバーするケースが多いが、最近は優先順位を決め、費用明細機能や経験者の口コミを参考に、賢く計画するカップルが多いのではないかと推測される。

最終的にふたりで支払った金額は、2014・2015年とも「100万円未満」に抑えられている。財布の紐をしめ、ランクアップしない努力をしているようであるが、最終的には親らの援助で、持出しが抑えられたと推測される。「持出しは一切なかった」というカップルもあり、最近のカップルの節約精神がよくわかる。

2次会を実施する・しないは半々である。実施した理

由の「全員を挙式・披露宴に呼べなかったから」から、予算を抑えようとしていることがわかる。しない理由の「幹事を依頼するのが負担」「祝儀以外に費用を出してもらおうのが申し訳ない」「ワイワイするのが苦手」は現在のカップルの特徴かもしれない。

ブライダルビジネスは、我が国の婚礼儀式や衣・食文化に大きく貢献してきたが、婚礼の形態が個性化の時代となり多様化し、カップルのニーズに十分対応するには現在のトレンドをいち早く把握する必要がある。

5 おわりに

筆者が若い頃、社会には、結婚に関する多くの知識を持たれている高齢者が存在した。しかし、現在は職場等で結婚の話をする事自体が難しく、厚生労働省の統計からも、婚姻件数が減少しており、ブライダルビジネスにとっては厳しい時代といえるだろう。しかし高齢化が進み、一生の間に数回結婚をする可能性もある。そのため、お金をたくさん持っているカップル（親や祖父母から資金援助がある）はともかく、バブル期のような豪華な結婚式を挙げる人は減少するだろう。本稿では、2012～2015年のブライダルビジネスの状況について述べてきた。現在は、ネット情報なしでは考えられない世の中になった。上手にネットを使いながら、就活、婚活、人生のしあわせをつかむための方法や考え方を大学として考えなければならぬ。

6 謝辞

最後に、本研究に際してご指導、ご助言下さいました、生活環境学部の藤本憲一教授に深く感謝いたします。

【引用・参考文献】

- (1) 平成23年人口動態統計月報年計(概数)の概況：結果の概要。
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai11/kekka04.html> (2016年3月30日にアクセス)
- (2) 2015年日本の広告費「解説—インターネット広告費がリードし4年連続でプラス成長を達成、株式会社電通、2016。
<http://dentsu-ho.com/articles/3708> (2016年3月30日にアクセス)
- (3) みんなのウェディング白書2012。
<http://www.mwed.jp/hakusyo/2012/> (2016年4月6日にアクセス)
- (4) みんなのウェディング白書2013。
<http://www.mwed.jp/hakusyo/2013/> (2016年4月6日にアクセス)
- (5) みんなのウェディング白書2014。
<http://www.mwed.jp/hakusyo/2014/> (2016年4月6日にアクセス)
- (6) みんなのウェディング白書2015。
<http://www.mwed.jp/hakusyo/2015/> (2016年4月6日にアクセス)